

Ⅱ-5

板書

黒板を見ると授業の流れや要点が一目で分かるよ！

★ 「板書の基本」

- 正確で丁寧な文字を書きましょう。
- 子どもの実態に合わせた文字の大きさに書きましょう。
- チョークの色は白色を基本とし、大切な言葉を黄色で、赤色や青色で枠や線をかくなど、その教室のどの子にも見えやすい配色、線の太さにしましょう。
- 学習のめあてと、めあてに対応したまとめを書きましょう。
- 子どもたちの考えの相違点や変化が分かるように工夫しましょう。

1 単位時間の学習内容が、すっきり収まるように、書くことを整理しましょう。



● 授業後に自分の板書の過程を振り返る。

- 授業後の板書を振り返る習慣をつけることが板書の技術向上につながります。上記の板書の基本に加え、次のような点でも自分の板書を見直してみましょう



- 子どもが分かりやすい文字量になっているか。
- 子どもの反応まで、あらかじめ掲示物にしていないか。
- 黒板から一番遠い席から見て、読めない文字はないか。
- 本時の学習内容の中心が、黒板の中に位置付いているか。
- 大切な言葉や内容が強調されているか。
- 子どもたちの発言を端的にまとめて書けているか。

- 子どもからの視点や学習内容を踏まえて板書のルールを見直しましょう



教科によって、黒板に書くルールが決まっていると、学習内容が振り返りやすいな。

主に縦書きに板書する国語や道徳でも、場合によっては上から下に展開するときもあります。指導計画や用いる資料などに応じて書く方向を考えることが大切ですね。



板書を構造化する。

学習内容や学習方法、児童生徒が学び合う場、授業の流れや子どもたちの考えの変化、ノートへの記録などを意識して「何を、どこに、どのように書くか」などの板書の構造を考えましょう。

<板書例>

- 子どもが参加する板書で、主体的な学習を進めましょう
 - ・ ネームプレートなどを活用して、子ども一人一人の立場を明確にする。
 - ・ 短冊カードやミニホワイトボード、吹き出しなどを活用して、子どもの意見を位置付ける。
- 学習したことの記録として、学習過程や結果が分かる構成にしましょう
 - ・ 前時までの学習の掲示物を生かして、単元のつながりを意識したり、本時の課題解決の手がかりとしたりすることができるようにする。
 - ・ 学習した事項の関係性が分かるようにするために、関係を矢印で示したり、内容のまとまりに小見出しを付けたりして整理する。

板書テクニックをさらに高める。

- 黒板以外も活用して、学習の効果を高めましょう
 - ・ サイドボードや掲示物などを活用して、学習への興味や関心を高める。
 - ・ 前時までに学習した内容や、参考になる資料などを背面黒板などに掲示する。
- 黒板にかいた内容を使った指導で学習の効果を高めましょう
 - ・ 授業の終末場面で、板書を用いて授業のまとめをさせる。
 - ・ 板書をデジカメで記録して印刷し、掲示したり次時の導入で確認したりして単元の学びの流れを捉えさせる。

ワンポイント！

子どもの考えがあふれる黒板に

授業に子どもが学び合う場を設定することは、授業づくりの基本です。しかし、音声言語のみによる学び合いは、集団で思考した記録が残らず、内容の理解でつまづいてしまった子どもや記憶が苦手な子どもは全体の学びに追いつけなくなります。学び合いのキーワードを教師が記録したり、子どもが考えを板書したりするようにして、学習集団で考えを深めてゆく軌跡が見える黒板になるようにしましょう。